

第83回国民スポーツ大会・第28回全国障害者スポーツ大会 開催基本構想骨子

構想の柱

取組項目

具体的な取組例

【共生社会の推進】

1

『新しいスタンダード』

コンパクトな大会を目指し、
新しいスタンダードを示す大会



(1) コンパクト

- ① 既存の競技施設を最大限活用し、施設整備は必要最低限
- ② 総合開閉会式のプログラムやアトラクションの簡素・効率化
- ③ 新たな社会環境下での感染症対策を踏まえた安心・安全な大会運営

(2) 連携とDX

- ① 県内で実施困難な競技は他県で開催
- ② 他県と連携した広報活動や競技用具の共同購入
- ③ 輸送交通、警備などの大会運営について、民間事業者からのICTを活用した企画提案を積極的に導入

(3) 国スポ・全スポの融合

- ① 両大会の選手・携わる人の交流・相互理解を促進
- ② 大会会場や情報発信のユニバーサルデザイン化の推進

2

『未来につなぐ』

アスリートのチャレンジを応援し、
未来につながる競技力を追求する
大会



(1) 本質の追求

- ① 「ぐんまのアスリート」を育成し、一過的な選手補強に頼らず、未来につながる競技力の向上を追求
- ② 競技毎に明確な目標を設定し、中長期的な視野に立って選手を育成強化

(2) アスリートの発掘、
チャレンジ、支援

- ① 小・中学生の才能を発掘し、育成強化
- ② トップアスリートの県内就職・競技活動を支援
- ③ 指導者・審判員など競技を支える人材の育成
- ④ パラアスリートへの活動支援や特別支援学校とトップアスリートとの交流など、障害者スポーツの発展を後押し

(3) 未来への投資

- ① 子どもが国スポ・全スポの種目を体験する機会を提供
- ② ユニバーサルデザイン化の推進や総合型スポーツクラブの活性化など、地域スポーツ環境の充実

3

『アクティブぐんま』

県民の誇りを育むとともに、
スポーツを通じた地域の活性化に
つなげる大会



(1) 県民の誇りの醸成

- ① 県民に身近な県代表、県出身アスリートの様々な活躍を紹介
- ② 動画スタジオやSNSを利用して、選手や競技団体の情報発信

(2) 健康志向

- ① 健康増進につながるエクササイズ等の情報をアスリートが発信
- ② 生涯スポーツや軽スポーツを普及啓発し、県民の健康意識を向上

(3) 県民の繋がり

- ① デモスポーツや文化プログラムを活用した交流機会の創出
- ② 地域団体・学校・企業など県内の様々な団体との連携
- ③ 会場案内や手話通訳など大会運営でのボランティアの活躍
- ④ クリーンアップ運動などを通して県民同士のつながりを強化

(4) 地域活性化

- ① 全国大会の誘致や運営支援を行い、地域経済の活性化につながる仕組みを推進
- ② 地域の魅力を活かしたおもてなし
- ③ デモスポーツや文化プログラムを通して、地域全体が楽しめる企画づくり